

佐川毅彦

せて運転中の事である。 なってしまった。その時奥さんを乗 ある日突然私の友人が自分を見失

る すればいいのか、わからなくなって た。それでも車は動きつづけてい 本人はハンドルを握ったままどう 家の近くの商店街で人通りは少 幸いな事にスピードは出してな

の後、 で他人事ではない。 彼は運転を辞めた。年も同じ

とか、道端に停める事ができた。そ

なく、コンビニに突っこむ事もな

通行人を引き倒す事もなくなん

貰い受けて運転を始めたのである。 は車の運転がうまくない。実は二年 免許は四十代で取ったけど、ほとん 前に娘のダンナが捨てるという車を なにを隠そう自慢じゃないが、

ど運転した事がなかった。 縄銀行その他などで開催しているが 沖縄県立美術館、琉球銀行や沖 は毎年、 絵画展を新国立美術

古い映画で

^{*}恐怖の報酬, という

中止になってしまった。 沖縄県立図書館をのぞいて、 みんな

図書館では七月いっぱい絵を展示

する事になっている。 さて問題は展示する絵を運ぶ事で

ある。 る方ではない。 先に書いたように私は運転ができ

親友の亘に頼むと新型コロナがど

た。実は私の次男にも年休を取れと 世話してやったのに恩を仇で返され と逃げてしまった。今までなにかと うしたとか、濃厚接触は危険ダ!

やるしかない。 である。他にあてがないので自力で たずけられてしまった。 正に親不孝を絵に描いたような男

頼んでみたが、ダメ!

の一言でか

のがある。 で危険なニトログリセリンを運ぶと デコボコの荒れた山道をトラック

> 運ぶ。 ンの心境で、ひとり車に絵をつんで さに主役のドライバー・イブモンタ いう、 恐ろしい内容だった。 私はま

りつく事ができるのだろうか? 果たして無事に図書館までたど

一〇二〇年六月三〇日お昼出発する。

散歩の秘密



至り

栄t

で、なぜかこの場合の「子」という年で、なぜかこの場合の「子」という年で、なぜかこの場合の「子」という年で、なぜかこの場合の「子」という年で、なぜかこの場合の「子」 になる。 可通以下を自認する者でも、少々、気 しそうでもあり、どうなることやら。 走ると、〝新型の人間苦〟として定着 の猛威には言葉を失う。語呂合わせにそれにしても、新型コロナウイルス 「傷官」とある。この類のことに半いい。 ちなみに今年は、干支で言うと庚子

引き寄せる感じがして恐縮至極と思い 書くと、いかにもこの先人を身近かに きなのかも知れない。と言うことか 身の存在感をこんな時こそ再確認すべ の面目を亡失したら元も子もない。自それはともかく、人間誰しも、本来 小林秀雄の世界に入って行く。と

> 良く生きる真実の手管を頂戴できた のことだった。 か、と思えたのは長い時の経過を経て つつも、ついこうなってしまう。 しかし、振り返ると、先人からより

を掲載した。 ページ余を使って、小林と某氏の対談 刊誌は創刊を記念した特別号の三十 が、今やかなり前のことだが、或る月 と、前置きが長くなってしまった

る。 え、 よらぬことが貴重なことに見えてき て、小林の人間性の集大成かとすら思 ところが今、読みかえすと、思いも ひときわ濃厚な感謝の念が湧出す

のは過去を思い出すことができるって 「人間の生得の能力で、一番大きい

> きな目安ですよ。」
> るいは人間を自然と区別する、 ことですよ。これが人間を動物と、

なってしまう。」 とではなく、以下、紹介する文章とコ ここに単独で尊い意味があると言うこ ただ、世の中には気の早い即断家もおず、これを押さえておく必要がある。 があるでしょう。要するに根がなく んななくなってしまう。そういうこと いと、人間の中から健全なものが、み ラボしてこそ、何かが見えてくると。 られると思うのでことわっておくと、 「だけどじかに私生活を問題にしな こ、は引用した覚えがあるが、ま

言える。 近の醍醐味でもあるから、奥が深いと 必要条件であるとともに、小林への接 林の真意は?との姿勢で読む、これが し、すべてをあからさまに書かない小 は、そう対応するかも知れない。しか べきことだろうか、いわゆる一般常識 問題にする」ことは、そんなに注目す 「過去を思い出す」とか「私生活を

以下も、 その姿勢が要る典型的な一

古学なのです。」 化する。これが宣長(=本居宣長)の 結び、この関係を情理をつくして明瞭 「自分と古人との間に親しい関係を

ここの「古人」という言葉は、読書各 ているかのようで、試金石かもと。 位の小林への尊敬、敬愛の念が試され ると推測してしまうのだ。とりわけ、 たことを、ここで」発信してくれてい れまでの文章表現では現わし得なかっ この対談は小林が七十歳前後で、そ

よって、ここの小林の意に添える気が うだ。それは、「過去を思い出す」、 が、ここではちょっと待て、となりそ して使用されることが多いと思われる 「私生活」と関連付けて考えることに ごく一般的には、歴史上の人物を指

> 上する。ある時は、鎌倉海岸を背景に 当っては、小林の散歩姿をグラビアあ は、自宅に至る石段を登る小林の写真 るいは表紙に多用したこと、これが浮 したものであったり、また、ある時

索しているかのようでもあり、また、小林の視線だ。やや下向きに何かを思だったりと。注目すべきは、その際の その口は何かを発していたかのようで もあった。そして―。

「宣長には特に言霊論というものは

ないが、彼の言う言霊は言葉の発音に

バラバラに考えていた、「過去を思い あるので、文字にはない。」 同じ対談にこれを見つけ、それまで

端に一つにまとまって、小林という人だの間に親しい関係を結び云々」が、途 出す」「私生活を問題にする」「古人と た。 たものではないことを確認した気がし の内面が、私達、一般人からかけ離れ

は異常な力が潜むことは承知していた ニュースを借りるまでもなく、 口にした言葉が問題化する。 言葉に 政界の

離感には言葉を失うのだが。

小林をメインにした特別号の発刊に

を垣間見ることへとつながって行く。 は、この対談で発信する小林の人間味 するからだ。つまり「古人」の解釈

ここで再び往時に戻ると、出版社は

つもりだったが…。

を耳にした。 時々、見ていたテレビからこんな言葉 ろがそんなある日のことだ。横目で いやがうえにも高揚して行った。とこ とともに、散歩中の小林への関心は

ると、小林の『断想』のラストのここ は思えない不思議を感じた。 真相を言い得ている気がして、 らしいのだが、まさに散歩中の小林の クという言葉があります。」 ここで、そもそもの原点回帰を試み 二つのことを同時に為すことを指す 「アメリカの学者に、デュアルタス 偶然と

と、実は通底していることを見抜くに 一ドストエフスキイは、『罪と罰』で、 だ。ただ、これが、同著の途中で、 はかなりの時間を要して、先人との距 てみせてくれたのだ」と書くところ 個人と社会との奇怪な腐れ縁を解剖し が念頭に来る。 もちろん、これは小林の本音のはず 「感心することを怠りなく学ぶ事。」

酒と肴・魚〜サワラという魚の面白さ〜 ートⅢ~フェニキアの風に吹かれて~



く「唐墨」が由来である。当時の て記述すると、カラスミは、 の逸品である。 手間暇かけて仕上げたカラスミは珠玉 市の「卯をじ」さんが伝承しており、 上品として作られていた。現在は高松 ある。江戸時代から藩主や幕府への献 酒のつまみとして良いのが、 讃岐では「サワラのからすみ」が 食文化的検証も含め まさし カラス

様に飴色ではない。生のサワラの卵巣 在カラスミの原料の主流であるボラの さんが)サワラのカラスミの色は、 ある。そして、自作した(友人の中條 サワラの卵巣のカラスミにそっくりで

0

である。

いわゆる今でいう新規商品

(即ち中国)の墨」でありその形状は

ラスミは延宝三年(一六七五)に高野 が決まり、受け継がれている。 の最初のカラスミ。その形状と色で名 初サワラの卵巣で作られたのが我が国 ミであったと記述が残っている。 た当時はサワラの卵巣を使ったカラス され伝わったとされる長崎では伝来し に近くなる。カラスミが中国から輸入 め、まさしく煤を膠で固めた墨の色彩 し赤みがある黒い色調を呈す。そのた に残っている血は干して乾燥すると少 の表面は血管が貼り廻っていて、 スミの語源はこれで至極納得。伝播当 がボラの卵巣を使って商品化したも 今のカ カラ 血管

> 水産大学校 水産 水産流通経営学科 准教授

水産研究・教育機構

ラのカラスミは少しナスやひょうたん きい魚種で、産卵回帰する魚である。 長崎周辺でも多く漁獲されているた ラは現在も資源的には東シナ海系群が に優位な新商品を開発して売り出した 開発で既存の商品よりもビジュアル的 ミにできる卵巣が多く入手できる。ボ ボラも同様に産卵場が概ね決まってい に変わったのかという疑問も出てく カラスミの原材料が、 ベンチャー的な取り組みである。 当時カラスミの原料を提供するサワ サワラは資源量の増減が非常に大 納得する。一方、なぜ我が国では 両魚種とも産卵場周辺ではカラス サワラからボラ

を抜くといった前処理の手間がかから た目の良さを演出するためにボラは血 は、サワラ、ボラとも手に入りやすい 当時の長崎ではカラスミの原料 寧な処理が行われ仕上げられている。 軽減している。気の遠くなる細かい丁 くことで、乾燥した際に黒くなるのを 血管に残った血を針を使って丁寧に抜 はサワラの卵巣表面の膜に張り廻った のカラスミを作っている「卯をじ」で ない。そのため前述した高松でサワラ ラスミとなり、見た目が良いとは言え 布している。このまま干すと赤黒いカ 方サワラは卵巣の表面に血管が多く分 常に奥深い飴色のカラスミとなる。一 などが浮き出てはいない。そのため非 飴色となる。ボラの卵巣は表面 て乾燥させると綺麗なべっこうに近い 黄色みが強い橙色であり、 ジが違う。そして生の卵 の型に近く、サワラのものとは 商品価値を上げることに繋がる見 しかしサワラはこの処理に大き 巣はきれい それを干し この卵巣 に血管 イメ 1

> と炙って供すればなおさらである 旨い。サワラのカラスミも当然独特の 大珍味にも挙がっているほど滋養深く ボラのカラスミは言わずもがな日本三 原料はボラの卵巣に集約されていった から高く売れる。 手間いらずで見た目が綺麗であること 風味があって美味いことをお伝えしてお のであろう。しかしその味はと言うと 複雑な味は酒に合う。 その ためカラスミの 表面をちょっ

と言われ、イタリアやギリシャ、 が多いフェニキア人の食文化がルーツ 紀前より地中海沿岸に居住してい プトなど地中海周辺で熟成した食文化 さて、カラスミは元々、起源前 エジ た謎 八世

え去っていき、終着点ではその の様に珍しがられるが、 キア人の得意とする交易によりアジア 海と日本に残る。通過点では概 は現代で洗練されたものは発祥の地中 に広がったとされる。カラスミの現状 から生まれたのである。それがフェニ いつの日か消 文化が 内ね流行

> 運んだのかもしれない。 であったフェニキア人であるから船で と出会えた。また、船での交易が得意 に到達し、中国でもまれ、 思う。シルクロードを介して東アジア でも産卵のために帰ってくる地中海ク ミが我が国に上陸した。そして日本酒 安土桃山時代の長崎の野母崎にカラス なったと酒 ラスミは日本酒に合うことが決め手と のみの居酒屋やまちゃんは 地中海では今 明の時代の

卵巣は水分が多いので、 鱈の卵巣もカラスミにする。完熟した てに。パスタの上に削りかけたりして ボッタルガ。スライスしてワインのあ て卵巣を露出させ、その状態を観察評 周辺の漁場では獲れたボラの腹を開け 黄色いオレンジ色の卵巣が良い。 旨味をトッピング。地中海ではボラや 未成熟のまだ

は壮観です。 のフェニキア人とユダヤ人と日本人 閑話休題、 シルクロードを経由した

価できるように市場で並べられた風景

な手間がかかる。そのためボラの方が

食文化となっていったのであろう。 新たな発展を見せ、いつの間にか伝統

カ

謎

有名である。イタリア語でbottarga:

ロマグロ

の卵巣を使ったカラスミが

古代からの知恵の美味しい卵巣を塩り興味深いものと思います。文化の面からも考察しても繋がりがあの関係は、時に話題になりますが、食

できないが語り継がれる古のロマンでできないが語り継がれる古のロマンでできないが語りというない。 文献ではアラブ人えたかもしれない、文献ではアラブ人えたかもしれない、文献ではアラブ人とありますが、ここは「フェニキアのとありますが、ここは「フェニキアのとありますが、ここは「フェニキアのとありますが、ここは「フェニキアのとありますが、ここは「フェニキアのとありますが、ここは「フェニキアのとありますが、ここは「フェニキアのとのできないが語り継がれる古のロマンできないが語り継がれる古のロマンでできないが語り継がれる古のロマンでできないが語り継がれる古のロマンで

上げた料理です。身質がしっとりし繊ルと月桂樹の葉や香草で香り豊かに仕中海と瀬戸内海繋がりのオリーブオイ中海と瀬戸内海繋がりのオリーブオイルを月桂樹の葉や香草で香り豊かにまだまだ。地のよりはで、サワラの美味しい料理はまだまだで、サワラの美味しい料理はまだまだが、サワラの美味しい料理はまだまだが、カージャーであります。

軽く弱火でオイル煮して、整える。滋き立て、フライパン等で一時間ぐらいき立て、フライパン等で一時間ぐらいで数日間冷蔵庫で熟成させ、風味を引で数日間冷蔵庫で熟成させ、風味を引いる。

イタンスープ」と言うが、これは間違

い。パイタン自体がスープなので二重

す。これは、現在、東かがわ市の安岐いらずにメインを張る料理となりまいらずにメインを張る料理となりまいらずにメインを張る料理となりまいらずにメインを張る料理となりました。

中トロに匹敵するほどで、しかも上品 筋肉に付きます。魚やイカをたくさん 筋肉に付きます。魚やイカをたくさん が水にも達し、マグロの はべて脂が乗る秋から冬の時期は身の はべて脂が乗る秋から冬の時期は身の がある。魚やイカをたくさん

ます。こうご期待

水産と商品化に向けて共同開発してい

を使ったリゾットも良い。よく、「パは上品且つ濃厚な白湯が引ける。それまオイル煮にしてしまた、サワラのアラから出るスープまた、サワラのアラから出るスープまた、サワラのですから、贅沢な逸品です。

料里がこのパイタンを使ったサフラの号のサワラ食育教室で最初に披露したワラのパイタンはすこぶる美味い。前のであるとまたまた脱線。もとい。サ表現である。「パイタン」のみで良い

かかわらずいたって上品なんです。 料理がこのパイタンを使ったサワラの リゾットであった。サワラの骨、筋な リゾットであった。サワラの骨、筋な どから出る脂とコラーゲンたっぷりの どから出る脂とコラーゲンたっぷりの とから出る脂とコラーゲンたっぷりの とから出る脂とコラーゲンたっぷりの

まで愛してほしいのよ」出たが、そこがサワラの真骨頂、「骨身でなくてアラなの?」という疑問がの料理の担当者からは、なぜ美味しいの料理の担当者からは、なぜ美味しい



金陵の酒造り

時代を超えて受け継がれる技と心。

[きんりょうのさけづくり]

万治元年(1658年)創

業の西野家は、阿波の藍商 人でした。その八代目西野 高右衛門が、寛政元年 原出されていた酒造株を買いたことから西野金陵の 取したことから西野金陵の 取したことから西野金陵の 歴史は始まります。長年、金 歴史は始まります。長年、金 が、寛政元を制と が、寛政元を制と で和44年には多度津工場を 併設し、現在の製造体制と なりました。創業以来23 の年以上、伝統の技と心を 引き継ぎ、品質一筋で酒造 引き継ぎ、品質一筋で酒造



[金陵の由来] 江戸後期の儒学者・頼山陽は、中国の古都・金陵を思わせるとして琴平の 地を金陵と呼びました。酒名「金陵」は、このことに由来しています。



良い水と良い米だけを使って、地元の作り手が 江戸の昔より230年、金陵の酒造りは真面目一本。

水は多度津工場の地下水と走用していています。ています。大変酸へかける蔵人の思いが込められは、金酸へかける蔵人の思いが込められています。

場所に定めたのは偶然ではありません。場所に定めたのは偶然ではありません。そのこの水が涸れたことはありません。そのこの水が涸れたことはありません。そのこの水が涸れたことはありません。そのな伏流水の真上に位置するからです。昭な伏流水の真上に位置するからです。昭和40年代の新工場の地下水を使用してい水は多度津工場の地下水を使用してい

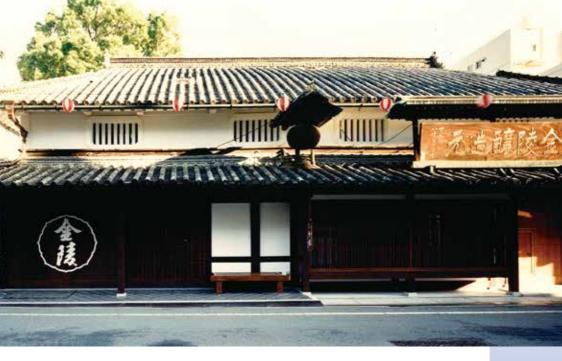


現在の金陵を支えています。 妥協なく良水を求めた先達の深い思慮が

の精神は今も受け継がれています。 い米を使う伝統を曲げませんでした。そ 本酒が流行した時代にも手を出さず、良 た。昭和の一時期、ヌカを使った安価な日 使ってもいい」との考えを守ってきまし は「良い酒のためには、どれだけ良い米を めらかで雑味のない酒になります。金陵 でタンパク質が少ない理想的な米で、な たオオセトを多く使用しています。大粒 米については、地元で大切に育てられ 良い水と良い米で造る生真面目な酒

製品が増えて す。どんなに 230年続く 造り。これが も心は一つ。 金陵の姿勢で





全国の観光客に、日本酒の文化と魅力を発信。





製造責任者/酒井史朗 金陵が受け継いできた技と心を大切 にし、誠実な酒造りを心がけている。 地元の資料館を巡って、金陵にまつわ る歴史を調べることが好き。

金陵の郷 仲多度郡琴平町623 電話 / 0877-73-4133 営業 / 9時~16時 (土日祝: 9時~18時) 年中無休 観覧料無料

箱根空木



西美子

中

花々は、ちゃんと咲いてくれます。毎日ですが、季節は何事もないように進んで時期を迎えたコロナ感染者数に一喜一憂して、ずっと自粛しっぱなしの

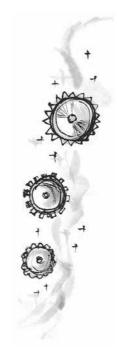
都心部の生花店は、厳しい事態で苦戦しているようです。 一次上だと聞きました。いつも人は、花に癒しを求めているこが、友人によると住宅街の花屋さんは、いつもの三割増しのが、方人によると住宅街の花屋さんは、 いつもの三割増しの

てきました。 がとびきり可愛いので、ご紹介したいと思い一枝そっと頂いがとびきり可愛いので、ご紹介したいと思い一枝そっと頂い桜が終わりアジサイが咲く少し前に夜の散歩で見つけた花

箱根空木と名付けられていますが、箱根に多く自生してるでコントラストが綺麗でかわいいので目立つ花木です。わっていきます。一つの房に白から濃い紅色まで混在するのき進むにつれて白かった花がピンクから紅色と濃い色に変箱根空木という筒状の花が六・七輪の房になっていて、咲

も私たちの目を楽しませ癒してくれる花々に感謝します。ニシキウツギと誤認されたといわれています。どちらにして長の早い低花木です。どうやら山合で自生するよく似た花のりのいい場所に分布している耐寒性耐暑性に優れた丈夫で成りかけではなく、北海道から九州にかけての海岸近くの日当たわけではなく、北海道から九州にかけての海岸近くの日当た

日本のマザーマシン



高

(作家・郷土史家 和

わたしは楽観視しています。 すると暗い気持ちになりがちですが、 句を並べて危機感を募らせる報道に接 うね。国債バブル崩壊、国家財政破 低迷の中でわが国はどうなるのでしょ 大恐慌などのおどろおどろしい文 口 ナショックに伴う世界的な景気

本の技術――という記事が掲載されま 国製造二○二五」に沿って狙われる日 読売新聞五月十一日朝刊に | | | | | | | | | | |

つとか。 ボット⑤精密計測機器⑥炭素繊維の五 備 (③超高精度精密工作機械④産業口

マザーマシンと呼ばれており、 械は機械を生み出す機械という意味で 盤などの、金属材料を加工する工作機 す。簡単に解説しておきましょう。 誌記者をしていたので、いくらかは世 年間、工作機械と産業ロボットの業界 かと思いますが、かつてわたしは十七 みの薄い分野はおそらく「工作機械」 間並み以上の知識を持ち合わせていま 旋盤、フライス盤、研削盤、ボール 一般的には、これらのうち最もなじ 自動車

要分野は①半導体材料②半導体加工設 から技術獲得を進めようとしている主 に製造強国になることを目指し、 した。これによると中国が二五年まで

日本

と断言してもいいでしょう。 ベルの自国工作機械産業があってこそ 以下の日本が誇るものづくりは高いレ

します。 頭集団を形成するメーカーが多数存在 いても生産販売量においても世界の先 オークマなど以下の、技術レベルにお ヤマザキマザック、DMG森精機、

わが国は安政三年 とする世界の工作機械産業史の中で、 ウイルキンソンの横中ぐり盤を幕開け ンリー・モーズレイの旋盤とジョン・ ンダからの造船用工作機械輸入と、欧 イギリスの産業革命時に誕生したへ (一八五六) のオラ

ぎませんし、今日においても日本は大 時点では下位ランクの弱小生産国にす ています。ちなみに中国も韓国もこの 連に次ぐ生産大国の仲間入りを果たし 産量においてアメリカ、 と、一九七〇年には切削工作機械の生 げ、当時の米国の有力専門誌による しましたが、戦後、奇跡的な発展を遂 上、、太平洋戦争でこの差を決定的に 米に大きく遅れをとってスタートした 西ドイツ、ソ

に世界をリードする位置づけを占める 求されるものづくり分野なのです。 を重ねる、辛抱強く努力することが要 し、こつこつと汗を惜しまず改良工夫 りません。地味な基礎技術を大事に 備機械を導入すればできる製品ではあ 資金を投入、先行する国から技術を導 発展を遂げてきたわけですが、どんと 機械同様にコンピュータと結び付いて 頼る加工機械だった工作機械も、 きく水をあけています。 旋盤工に代表される熟練職工 大規模工場をつくり、 日本はドイツ、 スイスと共 沢山の設 一の腕に 他の

> 焦土と化した敗戦国の中で立ち上がろ 当たり次第に機械らしきものを作り、 す。つまり、知恵を絞り汗をかき、 繊維機械などを手がけていたようで 社とも似たようなもので、畳製造機や 場は糊口をしのぐため、 後は小さな町工場でした。当時の町 釜づくりをしたとされていますが、 に至っているのです。 ヤマザキマザックも森精機も終戦 ひとくちに鍋 手 両 工 直

す。 ません。あまりに楽観的だと失笑を買 を含む数多の災厄の中から立ち上がっ いそうですが、必ず切り抜けるはずで 丈夫でしょう。うろたえることはあり 性と知恵を持ち合わせた国は今度も大 てきました。何があってもめげない根 勤勉で忍耐強い日本人は太平洋戦争

うとしていたわけです。

繊維」 す。こうした企業もまた、トヨタ同様 立 川電機、「精密計測機器」サタケ、日 工、「産業ロボット」ファナック、 東レ、 ありません。 コロナショックに耐えうる存在に違い イヨンといった企業があげられていま 述のヤマザキマザックなどほか日本精 業、「半導体加工設備」日立製作 日本電子、理化学研究所、「炭素 帝人、「超高精密工 東レ、東邦テナックス、三菱レ -作機械]

産業の消長と連動しているのです。 急速に輝きを失います。 &トレッカーなどの著名メカーが居並 ン、ワーナー&スエージー、カーネイ なるがゆえに工作機械産業はその国 車産業以下の諸産業の地盤沈下と共に 仰ぎ見られる存在でしたが、 マザーマシン

に際し、工作機械の動向もひとつ付け 加えておいてください。 したがって、今後の日本を予測する

中

国

業として、「半導体材料」信越化学工 が狙う日本の先端技術分野の代表的企 せています。読売記事の中では、 利益を出し、びくともせぬところを見

コロナショック後もトヨタがどんと

日本の工作機械産業の台頭が目立

作機械業界はシンシナティ・ミラクロ ようになる一九七○年頃までの米国工

万年筆、インク、そしてノートブック



片

出

義

男

だ。この結論が変わることはない、と 十年くらいにはなるだろうか 確信している。数年前のことだ。 記用具は万年筆だ、と結論したから つをよく考えると、もっとも適した筆 の書きかた、そしてその字の用途の三 ま万年筆を使っている。自分の字とそ 小説のためのメモを書くのに僕はい もう

ままにしておくほかない。どこか邪魔 は駄目だな、となった万年筆は、その かどうか、判断できないからだ。これ には、その万年筆が自分に適している いろんな紙に文字を書いてみないこと 入して自分のものにしたあと、自宅で は思っていた。簡単ではなかった。購 万年筆を選ぶのは簡単だろう、と僕

> てにようやく見つけたのは、プラチナ 数は百本には到達しただろう。その果 したことだろうか。購入した万年筆の にならない場所に置いて、 万年筆のセンチュリーというシリーズ を経過させる。 この作業を、いったい何度、 静かに時間 繰り返

なり複雑にからんでくる。そのような である、というものだ。ペン先の出来 道が見える。この万年筆ならいいかも 要素のからみあいのなかに、一本の筋 微妙としか言いようのない要素が、か に持って字をかいていく道具だから、 重さ、その配分のバランスなど、右手 の、中字、つまりペン先の字幅が、中 の良さに加えて、ぜんたいの大きさ、

> けていった。それしか方法はないから 唯一の確認方法を、僕は地道に追いか にしか、筋道の確認方法はない。その のためのメモを書いていく作業のなか 入れ、いろんなノートブックに、小説 を購入し、とりあえずおなじインクを なくとも五本はおなしシリーズのもの しれない、という筋道だ。 筋道は確認しなくてはいけない。

ら買って自宅へ持って帰り、いろんな どこでも買えるものをかたっぱしか をとった。まずブルー系のインクの、 僕は、インクの選定でもおなじ方法 チナのセンチュリーの中字を選んだ 百本を越える万年筆のなかからプラ

越えていろんな方向に広がっていた。 説のためのものだけではなく、それを ノートブックにメモを書いてみた。 頃になると、万年筆によるメモは小

だからメモを書くのは楽だった。

万年筆がきまればインクはたやすく

ンス製が多い。ノートブックは輸入品

うか、と真剣に思った時期もあるほど なじにしてみる、という基本的 果てにたどりついたのは、製造国をお いう組み合わせを、何とおりも試みた に、このノートブックにこのインクと 問題には、一生悩むことになるのだろ れど、ノートブックとインクの相性の 相性だけについて、書いておきたい。 書かない。ノートブックとインクとの だ。万年筆そのものとの相性の問題 なった。インクには相性があるから に愚かであるか、僕は思い知ることと きまるだろう、という考えかたがいか 書いておきたいと気楽そうに言うけ 複雑になりすぎるから、ここでは なアイ

重なり合った。

IJ l

たのではなかったか。インクにはフラ ノートブックは、三十種類は使ってみ ンのインクにロディアの いことを、僕は身をもって知った。 ブルー系のインクを百種類、そして という組み合わせがほぼ正解に近 ノートブッ

その正解がエルバンのインクという別 中字、という正解のなかで、ひとつに 解が、プラチナ万年筆センチュリーの の正解を導き出し、それらふたつの正 方針だから、ロディアは正解だった。 も購入可能なものが望ましい、という であれ国産であれ、どこの文房具店で

ロフォンデュール。この三種類だ。 四つだ。エルバンのインクから僕が選 んだのは三種類だ。パール・ノワー 3776の中字には軸の色が四色あ プラチナ万年筆のセンチュ 簡単に言うと、黒、赤、青、緑の ブリュ・ニュイット。ブリュ・プ

るというアイディアのなかからエルバ らノートブックもフランス製にしてみ ディアだった。インクがフランス製な

れぞれにエルバンのインクを満たし 本の万年筆のなかから三本を選び、

くような気がする。

そうはいかないのだった。 問題は解決かと思ったら、 は

考え始めると、道はどこまでも続いて うすればいいか。というようなことを で三本揃えたら、ひとまず完成した。 三本にしたい。中間的な太さのペン先 に、万年筆は九本も必要だ。万年筆が のインクを使ってメモを書くだけなの 字が、やはり三本。エルバンの三種類 く三本。そしてその中間的な太さの中 ク別に三本。太く書ける中字がおなじ ち九本となる。細く書ける中字がイン かない。三本の万年筆はここでたちま があることに、気づかないわけにはい た。メモを書いていると、その三種類 太さの字幅と、三とおりに分けること 素晴らしい。これらを使うためにはど エルバン以外のインクも、 いつも九本、机の上にあると邪魔だ。 が出来るのを、僕は知ることとなっ 太く書けるもの、そしてその中間的な 中字のペン先は、細く書けるものと それぞれに